

第2回 新任教員セミナー

国際文化学研究科の新任教員の研究内容を紹介・発信し学部や大学院での学術交流を促進することを目的に、今年度より開始するセミナーシリーズです。第2回は言語の歴史的変化をテーマとして、それぞれの教員が専門とする言語から具体例を示しつつ言語の変化の実態へと迫ります。

日時：2020年12月4日（金）13:20～14:50

場所：オンライン開催（Zoom）

講師：南本 徹（国際文化学研究科助教）

「古代ギリシア語方言碑文研究」

芹澤 円（国際文化学研究科助教）

「近世ドイツの印刷メディアにおける言語的特徴」

司会：巽 智子（国際文化学研究科講師）

申込方法：お申し込み専用フォーム bit.ly/promis1204

※開催日までにオンライントークにアクセスするためのURLを送付いたします

講師略歴

南本 徹

専門は言語学、中でも特に歴史言語学、印欧語研究、古代ギリシア語研究。カリフォルニア大学ロサンゼルス校大学院印欧語研究課程を修了した後、非常勤講師等を経て、2020年4月より現職。博士論文では古代ギリシア語諸方言の碑文に現れる従属接続詞の用例を扱った。刊行論文に“ὁ φάμενος ἀπειλευθερούσθαι/ἀπηλευθερώσθαι: An emancipatory formula in the Thessalian dialect and the Attic Koine in Thessaly” *Studies in Greek Linguistics* 36 など。

芹澤 円

専門はドイツ語学および歴史語用論。学習院大学大学院人文科学研究科博士後期課程を修了後、2017年4月から2020年3月まで同大学文学部ドイツ語圏文化学科助教。非常勤講師を経て2020年10月より現職。著作として「ドイツ最古の週刊新聞の「書きことば性」をめぐって—出来事をどのように報道するのか」金水敏・高田博行・椎名美智（編）『歴史語用論の世界—文法化・待遇表現・発話行為』pp. 219-245、2014年、ひつじ書房。